

県外派遣報告書

審判員名	立花 正司	所属	中体連
大会名	平成27年度 関東中学校バスケットボール大会		
期間	平成27年8月6日(木)～8日(土)		
会場	栃木県宇都宮市体育館・鹿沼市総合体育館		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月6日(木)	審判会議 関東大会1回戦	宇都宮市体育館・鹿沼市総合体育館	
8月7日(金)	関東大会2・3回戦	宇都宮市体育館・鹿沼市総合体育館	
8月8日(土)	関東大会準決勝・決勝	宇都宮市体育館	
会議 講義 内容			
<p>①伊橋隆浩氏:それぞれのプレイヤーが持つ権利についてご指導いただきました。ノーマルバスケットボールポジション、シリンドー、リーガルガーディングポジションの確認、シュート中の接触、フェイク後の接触、ピボット中の接触について、そのプレイにはどちらに責任があるのか。スクリーンプレイにおけるオフェンスとディフェンスとの距離;オンボールマンに対するDFは1歩の距離、スクリーンプレイは1～2歩の距離が必要。</p> <p>②佐藤弘之氏:ひとつの大切な試合で、いかに審判が、チームの意図や戦術、チームファール数、残り時間、キーとなるプレイヤー等、多くの情報を集めて判定材料としているか。勝っても負けても、どの選手もコーチも保護者も悔いが残らないようにするためには、審判員が一つ一つのプレイを大切に判定しなければならない。</p> <p>③安西郷史関東審判長:「より良い判定のために」バスケットの成り立ち、競技特性を十分に理解する必要がある。接触を避けようとするところに技術が生まれる。そのプレイがどうしてその現象になったのかを見極めるには、プレイの流れを把握し、意図を感じることが必要。また、様々なトラブルを審判が未然に防ぐために、TOやフロアキーパーとコミュニケーションをとり、心配りができることが重要。</p>			
実技			
担当試合	期 日	平成27年8月7日(金)	男子
	対戦カード	六ッ川中(神奈川) VS 上河内中(栃木)	主審 副審
	相手審判	小澤 明克 氏 (群馬)	
ミーティング内容		主任 渡邊 諭 氏(本部)	
<ul style="list-style-type: none"> ●プレイヤーやコーチの心理や戦術を感じながら入れるべき笛を入れている。 ●2人で協力した視野分担は良かった。 ●タイマー管理やベンチコーチへの声かけが良かった。 ●ポストへのストレッチの手に対する影響の理解が課題。 ●ビッグマンに対する守り方で「頑張っているけどイリーガルな寄せ」の「基準の強い示し方」が課題。 ●エリア3とエリア4の狭間、エルボーに対する危機感が感じられたので良かった。 <p>しかし、予測をつけて堂々と待ち受ければ「印象」がもっとよくなるので、審判としての「立ち姿の見られ方」、「安心感の与え方」は今後工夫するとさらに良くなる。</p>			
全体の感想			
<p>今回、2回目の関東中学への派遣をいただき、大きく2つの事を感じました。一つ目は、ワンプレイに対する技術やルールの深い理解の重要性。2つ目は、判定や運営の丁寧さです。プレカンファレンスでは、改めてプレイヤーのその権利について丁寧に確認しながら役割分担をして協力して運営しようということをお話いただき、落ち着いた気持ちで試合に臨めました。ゲームでは、「誠実な笛を吹くためには、プレイの流れ、技術や権利の深い理解」「二人の協力運営していく事への思考」、「危機感を感じる場面での振り舞い、表現、1ゲームの中でのフォーカスの変化」、「審判員の立ち居振る舞いひとつで変化する周囲への影響を研究すること」が今後に向けての課題だと感じました。栃木県の皆様には、細部にまでご配慮を頂き、ありがとうございました。また、日頃より沢山のご指導を頂き、今回このような貴重な機会を下さいました県内指導員の皆様に、心より感謝申し上げます。研鑽を積み、「あなたに吹いてもらえて良かった」と言ってもらえるような信頼される審判を目指して精進します。今後ともご指導よろしくお願い致します。ありがとうございました。</p>			